

第4回（平成27年度）

千代田町 小・中学生ふくし ポスター・作文コンクール

このコンクールは、町内の小・中学校にご協力をいただき、福祉教育の一環として
児童及び生徒の社会福祉に対する一層の理解とボランティア活動への関心の高まりや、
思いやりや助け合いのこころでお年寄りや障がいのある人、健康な人もみんなで手を取り合い
生き生きと暮らせる地域社会を願って実施しました。

【応募総数:ポスターの部 57作品／作文の部 109作品】

入賞者一覧(敬称略)



ポスターの部（中学生）最優秀賞
千代田中学校3年 加藤 萌香さん

《ポスターの部》

小学生 低学年

最優秀賞 西小学校1年 尾内 瑠華
優秀賞 東小学校2年 安達 由奈
佳作 東小学校1年 増田 莉子
佳作 西小学校2年 岡村 穂香

小学生 中学年

最優秀賞 東小学校4年 笠原 彩永
優秀賞 西小学校4年 君島 あん
佳作 西小学校3年 川島 優芽

小学生 高学年

最優秀賞 西小学校6年 長島 巴奈
優秀賞 東小学校6年 石島 望羽
佳作 西小学校5年 今成 愛菜

中学生

最優秀賞 千代田中学校3年 加藤 萌香
優秀賞 千代田中学校2年 中西美紗樹
佳作 千代田中学校1年 荒井 玲菜

《作文の部》

小学生 低学年

最優秀賞 西小学校2年 吉澤 理空
優秀賞 東小学校2年 吉田 朱里
佳作 東小学校1年 村田 湊人
佳作 西小学校1年 尾内 瑠華

小学生 中学年

最優秀賞 東小学校4年 吉永 隼毅
優秀賞 西小学校3年 林 由佳子
佳作 東小学校3年 石川 理人

小学生 高学年

最優秀賞 西小学校5年 水 愛心
優秀賞 西小学校6年 大澤 柚菜
佳作 東小学校5年 佐々木 陽
佳作 東小学校6年 生熊世璃菜

中学生

最優秀賞 千代田中学校3年 塩田 実咲
優秀賞 千代田中学校2年 高橋緋嵯菜
佳作 千代田中学校1年 萩本小日菜

作文の部

小学生・低学年 最優秀賞

西小学校 二年 吉澤 理空

ぼくのおばあちゃんは、足の手じゅつをしてある。ぼくが赤ちゃんの時に手じゅつをした。今は、ふつうに歩けるけど、長い時間、歩くことはできない。

おばあちゃんのいえは、おこめ、やさいをつくっている。せんぎょうのうかだ。まい日、休みなしで、そとではたらいっている。あさ早くから、くらくらなるまで、まい日。じいちゃんのおそばで、もんくも言わず、言われたしごとをやっている。いつも夏休みになると、ばあちゃんのしごとをてつたうために、ばあちゃんといえにとまりに行く。そのしごとは「オクラとり」だ。あさ、四時三十分におきて、いえのうらにあるはたけへ行く。二時間かけてオクラをとる。ばあちゃんは、すわれないからタイヤのついたいすにすわって、さぎょうをする。じいちゃんとぼくは、いすなしですわってさぎょうする。すぐたいへんしごとだ。そのしごとをまい日、夏のあいだやっている。そんなじいちゃんとばあちゃんは、すこい。

ぼくは、今までじいちゃんとばあちゃんのしごとをあまりしらなかった。しごとをてつたことてたいへんさをした。おじいちゃんやおばあちゃんになってもはたらいっている人はすこいと思う。ぼくはまだ小学二年生だ。これからは、「こまっている人がいたらたすけてあげたい。おじいちゃんおばあちゃんに力になりたい。」そう思った。もちろん、ぼくのじいちゃんとおばあちゃんに力にもなる。とくにはあちゃんの足の力になりたい。

作文の部

中学生 最優秀賞

少女の勇氣

千代田中学校 三年 塩田 実咲

こんな光景を見たことがある。
「どうぞ」
小さな女の子が、おばあさんに席を譲っていた。少し恥ずかしそうに、しかし、まっすぐな瞳で、女の子はおばあさんを見つめていた。「席、どうぞ」

声にしてしまえば、たった数秒。だが、誰かを笑顔にすることができる思いやりのある言葉だ。ただ残念なことに、この一言を自然に

小学生・中学年 最優秀賞

東小学校 四年 吉永 隼毅

日本テレビの「二十四時間テレビ」を見て、色々な人がたくさんのお話をしているのを見てすごく楽しい気持ちになったり、悲しい気持ちになったり感動したりしました。その中でボランティアという言葉が出てきて、お父さんにその意味を聞いたら、
「自分からお金をもらわずにみんなのためにやるような事をする事だよ。」
と教えてくれました。そして、
「お前もした事があるだろう。」
と言われました。だからそのことを書くように思います。

ぼくは、去年利根川の土手で、初めてボランティアをしました。それはゴミ拾いのボランティアです。本当は五年生からやるものだけど、お母さんが行ったので、いっしょに行ってみました。そうしたら、利根川の土手にはいっぱいゴミがあったのでびっくりしました。だけどみんなでいっしょにゴミを拾い出したので、ぼくはすっごくいっぱいあったゴミを、とってもとってもたくさん拾いました。何でこんなにたくさんゴミがすててあったのかよく分からなかったけれど、いっしょにいたお母さんが、
「だれか一人がゴミをすてると、そのゴミを見た人が自分だけじゃないからと次々とすてていくんだね。」
と言っていました。それに、
「自分の家の庭にはゴミはすてないでしよう。自分の家じゃなければきたなくても平気なんだよね。」

口にできる人は、以前の自分自身も含めて非常に少ないのかもしれない。
私は、電車やバスで高齢者や妊婦の方に会ったときなどは、席を譲るように心掛けるようになった。小学校のときのバリアフリーについての授業で、お年寄りの大変さを疑似体験によって知ったことをきっかけに、何か自分にもできることがあるのではないかと考えるようになったから。けれど、声をかけることをためらってしまう自分もいた。初めて会った人に話しかけにくいというのもあるが、「相手が迷惑だったら」と後向きなことを考えてしまったからだ。後から、「勇気を出して声をかければよかった」と思うことは何度もあった。

ヨーロッパには、そもそも優先席がないところも多くあると聞いた。それは、自然と当たり前のように、譲り合いや思いやりの心がはたらいっているからではないか。
では、日本人は外国人に比べ、「譲り合い」や「思いやり」の精神が欠落しているのかと考えると、そうとも言え切れない。日本人の特徴について以前聞いたことがある。そもそも日本人は「義理」と「人情」を大切にしているのだという。日本人はもとも自然に他人への気遣いができ、皆が「譲り合い」や「思いやり」の心をもっているのではないか。では、なぜ身の周りを見渡したときに、「譲り合い」「思いやり」の心が欠けていると感じることがあるのだろうか。

これは私の意見だが、私のように声をかけたくても勇気がでないという人もいるのではないかと思う。それならば、思ったときに自然に行動に移せるようにはたらき掛ける仕組み

と言っていました。ぼくは、大人になっても、ゴミは川や道路などにはぜつたいにすてません。だってすてたら、ぼくたちみたいなボランティアの人が拾わなければいけないからです。そして、すてている人がいたら、ぜつたいに注意します。ぼくたちがいっぱいひろったので、土手はきれいになりました。ぼくは次にまたボランティアがあったらぜつたいに「行こう」と思っています。

小学生・高学年 最優秀賞

西小学校 五年 水 愛心

私のひいおばあちゃんは九十三歳です。私が小さいころは、一緒に買い物に出かけたり旅行に行ったりして元気で優しいひいおばあちゃんでした。

私が四年生になったころからだんだん調子が悪くなってきて、ほとんど部屋から出てこなくなってきた。体力が落ちてきて自分の力では歩けなくなってしまう、おじいちゃんとおばあちゃんの介護生活が始まりました。トイレに行く時やお風呂に入る時、食事をする時に、おじいちゃんとおばあちゃんがサポートしていました。おじいちゃんとおばあちゃんには、とても大変そうでした。

七月になって、ひいおばあちゃんの体調が悪くなって一週間入院しました。その時に、おじいちゃんとおばあちゃんは、大きな決断をしました。ひいおばあちゃんを老人ホームに入れることです。退院できると思って喜んでいました。退院できると思って喜んでいました。

みづくりが必要であると私は考える。例えば、優先席を設けるだけではなく、「優しさあふれる生活へ」といったキャンペーンを行ったり、ポスターを掲示する。これらも、一つの手段だと思うのだ。
福祉というのは、そもそも「幸せ」という意味だそう。だ。「こころしくてはならない」より、「こころするとみんなが幸せでいられるだろう」という方向性で物事を見つめる。そうすることで、本当の福祉社会がつくられていくのではないか。なぜなら、福祉というのは、一人一人の思いやりが実った姿だと思えるから。

ボランティアの募集が、中学校で定期的に呼びかけられている。福祉に携わることには、私たちにもできるということだ。また、言いかえれば、福祉に関わる機会は色々なところにあるといえるだろう。これからは、未来を生きる者として、自分にできることを広げていく努力をしたい。そして、迷うことなく声を出せる人になりたい。もちろんそれが、いつであれ、どこであれ、誰であれ。一人一人が、支え合おう、助け合おうという意識をもつことが明るい未来に繋がっていくと思う。誰も気づかないくらい小さな行動であっても、その積み重ねが、社会を一步一步変えていくのではないか。そう、電車でおばあさんに声をかけた、あの少女のように。





ポスターの部 (小学生・低学年)
最優秀賞
西小学校1年 尾内 瑠華さん



ポスターの部 (小学生・中学年)
最優秀賞
東小学校4年 笠原 彩永さん



ポスターの部 (小学生・高学年)
最優秀賞
西小学校6年 長島 巴奈さん



千代田町社会福祉協議会
(千代田町ボランティアセンター)

〒370-0503 邑楽郡千代田町大字赤岩2119-5
千代田町総合福祉センター内
電話番号 0276-86-6181
URL <http://www.chiyoda-shakyo.or.jp/>